

令和8年3月10日

厚生労働省  
医政局看護課長 習田由美子様

一般社団法人全国保健師教育機関協議会  
会長 臺 有桂

## 第112回保健師国家試験の出題内容について

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より、保健師教育にご配慮いただき、厚くお礼申し上げます。

また、全国保健師教育機関協議会の活動に特段のご理解とご協力を賜り、感謝しております。

さて、2月13日に行われました第112回保健師国家試験について、当協議会会員校から寄せられた意見を集約し検討した結果につきまして、別紙のとおり、お届けいたします。

何卒、ご検討いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

## I 不適切問題

問題番号	理由	コメント
午前：26	正答が複数ある	正答が2つある。選択肢2と3が正答である。 <理由>災害の種別、規模、保健師の所属や立場が記載されていないため、回答者によって想起する状況が多様である。市町村保健師の場合は災害時要支援者名簿に含まれる者が自宅にいると考え2が正答となる。保健所・保健師の場合は保健所が活動拠点（本部）と考え、施設の安全を確認してから活動する考え3が正答となる。
午前：30	正答が複数ある	正答が2つある。選択肢3と5が正答である。 <理由>選択肢3の評価指標を、判断基準と解釈すると3は正答となる。
午前：41	正答が複数ある	正答が2つある。選択肢4と5が正答である。 <理由>エコマップから判断し、強い関係性からの働きかけが効果的と考えたと4が正答となる（タキノミーⅡ）。強い関係性を持つ家族間で解決できない課題（Aさんの喫煙）について保健師に相談されたと考えたと5が正答となる（タキノミーⅢ）。
午前：52	正答が選べない	<理由>最も適切なものを選ぶ設問であるならば、選択肢はすべて適切なものであるべきだが、2は適切ではない。1, 3, 4のうち、最も適切を選ぶ根拠が各種教科書を探したが見つからず、正答が選べない。
午後：2	正答が選べない	<理由>家族関係の基本情報がないことから解答のための判断材料がなく、正答が選べない。
午後：3	正答が複数ある	正答が2つある。選択肢2と4が正答である。 <理由>状況設定の時点と設問の時点の時系列が不明瞭である。そのため問われている状況の解釈によって、複数の選択肢が正答となる。 設問の「保健師の支援」が行われるのを初回ととらえることも、2回目、3回目ととらえることもできる。「開始期の進行は住民と保健師が協力して行う」という教科書の記載があり、参加者に進行を依頼する2は正答となる。「開始期の保健師の役割として一人ひとりに対応する」という記載もあり、個別に捉え対応する4は正答となる。
午後51：	正答が複数ある	正答が2つある。選択肢3と4が正答ある。 <理由>関係者で地域課題を共有する場としての「地域ケア会議の開催」と考えると正答肢は3となる。地域課題を状況設定にある「民生委員からの報告事項」ととらえて、その対応を検討するための「地域ケア会議の開催」と考えると正答は4となる。いずれも地域ケア会議の機能である。

## II その他改善を要する問題

理由	コメント
設問の改善が必要である。	午前6：保健師が企画する事業の内容が現実的ではない。未就学の「多胎児のいる家庭への支援」の担い手に、「多胎児をもつ親の会のメンバー」を想定するより、地域課題の解決は地域住民に幅広く協力を求める姿勢が基本であり、支援の担い手の例として「子育てを経験したシニア」「近い将来に子育てをする学生」等が考えられる。この設問の状況設定は改善を要する。
	午前 14：選択肢3は職場環境についてのもの、選択肢4はメンタルヘルスについてのものであり、ナンセンス肢である。実質2択問題、健康経営の意味がわからなくても解答可である。
	午前 20：法で定めているものを問うているが、正答肢の体制は直接定められていない。(体制の整備、であれば可)
	午前 22：選択肢に法律名と大綱、プランがあり、選択肢の質がバラバラである。 選択肢4はナンセンス肢である。
	午前 23：乳児健康診査の際の乳児の月齢の記載がないため、標準的な接種時期の範囲なのかどうか不明であり、状況を想起し難い。この状況を一概に「倫理的課題」と表現することには疑問がある。
	午前 24：最も適切なものを問う設問は、適切な選択肢の中から最も適切なものを選ぶ設問である。4は明らかに不適切であり、他の選択肢についても「最初に行う声かけ」には不適切なものがある。
	午前 40：選択肢の語尾を「高い」に統一していることにより、文言が不自然な日本語となっている。
	午前 41：最も適切なものを問う設問であるが2はナンセンス肢であり、3は不適切である。
	午前 43：家庭訪問を行うと、居住環境、生活の状況から推察される経済状況、対象者の大まかな健康状態は把握される。この家庭では安定感の乏しい状況をふまえ複数視点からの情報収集が必要と思われるが、一般的な新生児訪問とほぼ同じ正答が選ばれる設問となっている。 出題の意図は「収集する情報で優先度が高い」情報を問うているのではなく、家庭訪問で収集した情報のうち「想定される課題への対応のために優先度が高い」情報を問うているのではないか。設問の意図に応じた、問い及び選択肢とすべきである。
	午前 44：退院連絡票から新生児訪問を行った事例であるが、退院後2日後の訪問の次の支援が4か月児健康診査というのは、親子保健活動として提示する事例としてはいかなるものか。
	午前 50：選択肢4は「統括保健師から気持ちを話すよう促す」と解釈すると誤りである。「スタッフが自発的に気持ちを表出する環境を確保する」と解釈すると正答となる。災害保健活動のデリケートな部分であり、この設問の状況設定と併せて受験生の判断が分かれないうちを推敲されたい。

	午前 53：最も適切なのはどれか、とあるが正答肢以外は適切ではない。改善を要する。
	午後 3：地区で住民同士が支え合う体制の構築を目指す活動で、参加者 15 名が全員初対面という設定は不自然である。地区担当保健師が進行役を任せられる住民を知っていることも想起できる。状況設定に改善を要する。
	午後 12：「間を開けず」という表現は推敲および改善を要する。
	午後 18：家庭訪問を行うと、居住環境、生活の状況から推察される経済状況、対象者の大まかな健康状態は把握される。この事例では失禁のある独居高齢男性という状況で、複数の角度からの情報収集が必要と思われるが、看護師でも着目する正答が選ばれる設問となっている。 出題の意図は、「収集する情報で優先度が高い」情報を問うているのではなく、家庭訪問で収集した情報のうち「想定される課題への対応のために優先度が高い」情報を問うているのではないか。設問の意図に応じた、問い及び選択肢とすべきである。
	午後 23：選択肢 3 と 4 の 2 択とわかる。選択肢に改善を要する。
	午後 28：選択肢の質がバラバラである（選択肢 1、2、5 は法令・通知）。HIV/AIDS については差別・偏見の歴史的経緯を踏まえた学修が求められており、疾患の特性や社会的背景を踏まえた設問を期待する。
	午後 30：選択肢 1、2、3、4 は学生が用いる教科書等から正否の根拠が見つかるが、選択肢 5 については根拠が見当たらない。
	午後 45：選択肢 1・2・4 が否定形かつ誤答肢である。選択肢は肯定形という基本を遵守されたい。
	午後 46：国の基準を下回っている値を選ぶ問いであるが、施策は多くのデータから重点的な対象を選ぶべきである。設問に改善を要する。
	午後 48：事例から緊急性の高い場合であるとは読みとりにくい。実際に 1 歳 8 か月児を児童相談所で一時保護する可能性は低く、母親への支援と並行して、「子育て短期支援事業（ショートステイ）の利用や「里親委託」の選択肢がある。いきなり児相による一時保護は、現実と乖離しているのではないか。改善を求める。
	午後 50 - 51：「この状況設定では民生委員が介護保険サービスを導入したように読める」という指摘が特に多かった（実際には民生委員は支援の橋渡しをすることはあっても、導入する権限はないという指摘）。 51 では、民生委員が地域ケア会議を開催するよう保健師が求めたように読めるとの指摘も多数受けている。状況設定について、誤解の生じない日本語表記をされたい。
状況設定問題の基本構造を遵守されたい	午前 39 - 41：3 連問の状況設定問題であるが、状況設定を用いるのは 39 のみで、40 と 41 は状況設定を必要しない単問である。状況設定問題の趣旨を踏まえた出題を求める。
	午前 42 - 44：3 連問の状況設定問題であるが、状況設定を用いるのは

	42のみで、43と44はほとんど状況設定を必要としない。また、43と44の選択肢が被っており（経済状況）、設問43への回答が後の設問44の回答に影響を与える「キャリアオーバー効果」が起こりバイアスを生じる原因となっている。改善を要する（不適切問題との指摘あり）。
	午前45-47：3連問の状況設定問題であるが、45は状況からの判断は熱中症のみ、46と47は状況設定を必要としない。また、47は46の短い状況設定のデータとの比較となっている。
	午前51～53：状況設定文が2行のみと、状況設定を用いて各設問に解答する構造となっていない。
	午後38-39：状況設定の情報をほとんど用いずに回答できる。
	午後44-46：状況設定の情報が希薄である。
易しすぎる	看護師教育で学ぶ内容である：午前8、午前9、午後20、午後22、午後27
	専門職でなくても回答可：午前15、午後1、午後8
	文字を読むだけで回答可：午後11、午後43
	カタカナ言葉の意味が分かれば回答可：午後16、午後17

### Ⅲ 良問について

良問について次の視点で意見を募ったところ特に下記の問題についてコメントがあった。設問のテーマや状況設定について工夫されている点を評価したい。

- ① 出題基準に沿い、新しい切り口である
- ② 新人保健師に必要な知識と技術に関する問題である。
- ③ 実習・演習経験によって判断することが出来る問題である。
- ④ 難易度が適切である(よく学習した者は正答を学習が浅いと誤答を選ぶ)
- ⑤ グラフ・データ・画像など文章以外の情報によつて的確な判断ができる

問題番号	理由	コメント
午前30	④	スクリーニングの意味を正しく理解していないと解けない良問
午前32	④	保健統計の問題であるが、思考過程が複数回ある良問
午前41	⑤	エコマップを用いて家族等の関係を示している点が良い
午前42-44	②	虐待リスクのあるケースを扱った実際的な理解と判断を求める良問
午前45-47	④	親子関係に問題がありそうな状況に関心を寄せ、学校保健活動の展開の基本を問う良問
午前55	④	双極症の病態を十分に理解して初めて回答できる良問である。
午後39-40	①	産業と成人保健を絡めた状況設定がされており、海外赴任など新たな切り口の問題

午後 45	②③	卒業研究等での経験から解答できる問題であり良問
午後 47	④	産婦健康診査、1 歳 6 か月健康診査の目的や内容を把握し、考えて解くことができる良問
午後 49	②	市と県の保健師の役割を踏まえた検討する良問
午後 52	②	保健師が実際に地域で出会うことがありそうな事例であり良問

#### IV 全体について

##### 1) タキソノミーレベル分類

第 112 回のタキソノミーは、I : 50 問 (45.5%)、I' : 20 問 (18.2%)、II : 35 問 (31.8%)、III : 5 問 (4.5%) であった。与えられた情報を理解・解釈して解答する II の設問が減少し、設問の情報を解釈 (1 回目の思考) するのみではなく、選択肢の情報を解釈 (2 回目の思考) しないと解答できない III の設問数は増加している。過去 10 年間の設問のタキソノミー類型の分布の推移をみると、今回の 112 回の設問は、II と III を合わせた割合 (36.3%) は前年より減少している (図 1)。

保健師として必要な技能を備えているかを判定する「状況設定問題」は試験の約 3 分の 1 (35 問) を占めるが、状況設定問題のタキソノミー分類 II 及び III の設問は 28 問 (II が 24 問、III が 4 問) となっている。過去 10 年間で、状況設定問題における、判断力を問う出題 (タキソノミー II 及び III) が最も多い試験となっている (図 2)。

保健師として必要な技能を備えているかを判定する「状況設定問題」における、判断力を問う出題 (タキソノミー II 及び III) の割合を高く保てる国家試験問題の継続的な出題を要望する。

##### 2) 状況設定問題の出題構造について

状況設定問題 13 のうち、少なくとも 6 題 (午前 39-41、42-44、45-47、51-53 午後 38-40、44-46) について、「状況設定を必要としない設問」、「前問の設定を用いさせる設問」、「同系統の選択肢が前問に含まれている設問」が見られる。

状況判断能力を測るという状況設定問題の趣旨に反するものである。「状況設定を用いる問題の作成」及び「前問の設定に依存しない独立性を確保した問題の作成」を強く要望する。

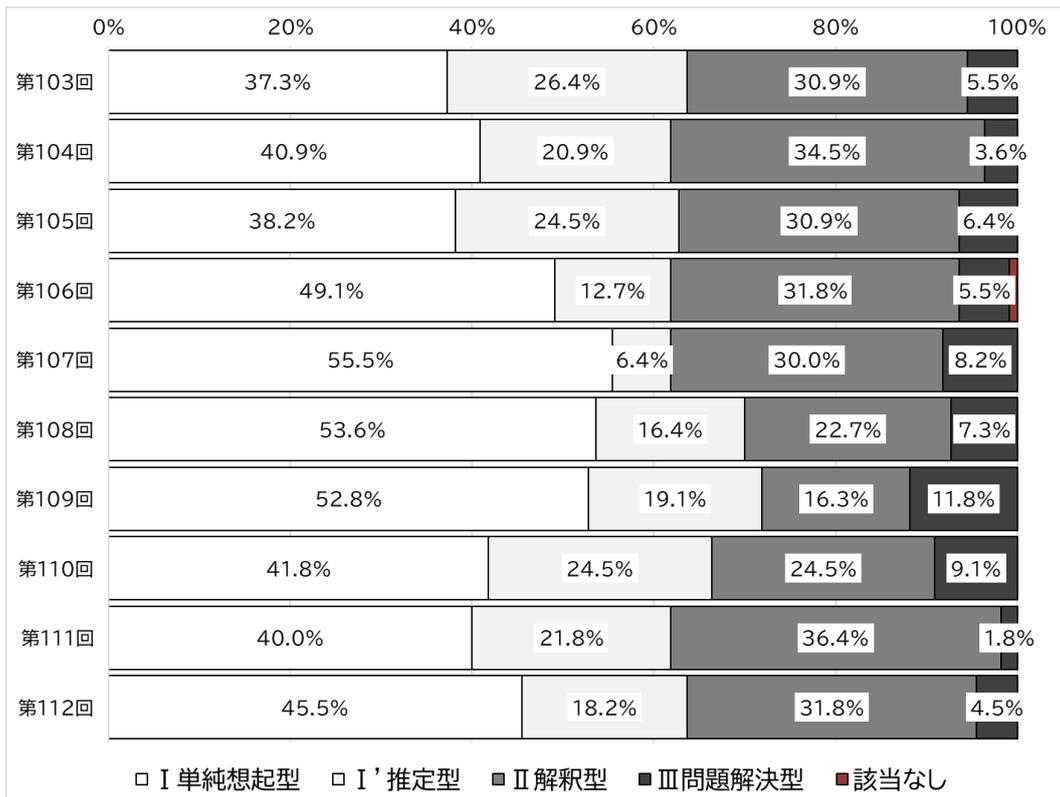


図1 タキシノミー分類（全110問の内訳（割合））の推移

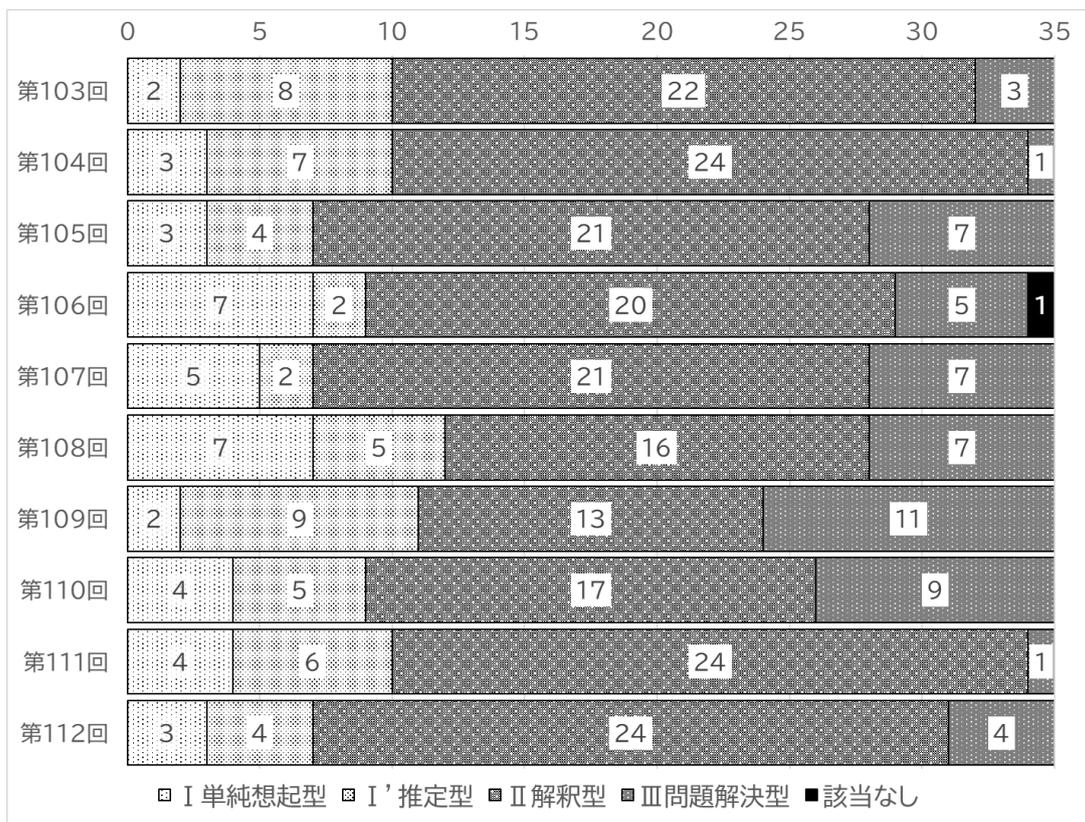


図2 タキシノミー分類（状況設定問題35問（問題数））の推移

以上